

第7回あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会 議事概要

■開催日時：令和6年11月1日（金）13:30～16:00

■開催場所：高知共済会館 3階大ホール「桜」

■出席委員：黒笹会長会長会長、岡村副会長、坪井委員、百田委員、藤本委員、西脇委員、西内委員、吉村委員、門田委員（欠席：鍵山委員、林委員）

■議事：

（1）本年度の取組状況について（資料1～2に基づき県、市町村から説明）

○あゆに触れられる機会作りに関する意見

- ・あゆ釣り体験について、小学生くらいの年代で自然体験をするのは良い取組だと思うので今後も継続し、あゆの関係人口増加に向けてこのような取組を増やしていただきたい。（黒笹会長）

○流通販売に関する意見

- ・ふるさと納税の返礼品について、現在は冷凍鮎を取り扱っていると思うが、塩焼き等の調理済み冷凍品のラインナップを増やしていただきたい。（黒笹会長）

- ・ふるさと納税は競争が激しいため、商品単体だけでなく市町村単位でのブランディングが重要だと考える。当方は鮎関係の体験も提供しており、体験者がファンになってリピーターになることが多い。体験を絡めた取組は良いモデルケースになると思う。（西脇委員）

○情報発信に関する意見

- ・天然鮎について、県は天然鮎をプッシュしているが見た目や食味で養殖との違いが分かる人がどれだけいるのか疑問。なぜ天然が良いかという理由づけが重要になるが、食味だけでなく川の成り立ちや文化など、ストーリーと合わせて情報発信することが高知の天然鮎の付加価値となるため、今後売り込むうえで重要となる。（百田委員）

- ・岐阜県の取組について、岐阜県は鮎に関する情報発信や商売が上手で高知県も学ぶべき点があると考え。具体的には高知には鯉を始めとした海の魚があるが、岐阜には海がないため、鮎をはじめとした川魚にかける熱量が違う。

ただし、岐阜県と高知県の共通点は漁場がたくさんある点、どこかの川の漁獲状況が芳しくなくても、他の川でカバーできると総倒れしない。いずれにしても安定して漁獲できる環境が大事で資源管理が重要。（坪井委員）

○資源保護に関する意見

- ・河川環境の保護につながる取組を推進していきたい。鮎の関係人口が増えることでそういった取組に賛同してくれる人も増えると思う。（吉村委員）

(2) 作業部会の取組について(資料3～5に基づき事務局から説明)

○情報発信に関する意見

- ・天然鮎祭りについて、盛況だったということだが、そこに情報発信に係るヒントがあると思う。アンケート調査の結果等を参考に今後の効果的な情報発信につなげていただきたい。(岡村副会長)

○流通販売に関する意見

- ・凍結試験について、今回は締めてからの保管期間が1カ月程度での試験となったが、実際に流通する場合はさらに長期間の冷凍保管が必要になることを考えると、緩慢凍結やブラスト凍結に比べて、ブライン凍結やプロトン凍結による食味の優位性はより顕著になるだろうと思う。一方で、ブラインやプロトン凍結機は導入費用やランニングコストも高くなるので、コストと味のバランスを考えた商品開発を進める必要があると感じている。(西内委員)
- ・一般的に流通している冷凍鮎は緩慢凍結によるものが多いと推測。県としては補助金等による支援も考えている一方で、安価な凍結方法についても検討・普及していきたい。アユを使って外貨を稼ぐ仕組みづくりとしてアユの冷凍技術向上の取組を始めたところ。今後は民間の力も借りながら推進していきたい。(高知県水産業振興課)

○資源・環境保全に関する意見

- ・カワウ対策について、瀬戸内地域で対策が進んでいる。ダム周辺に籠城されるとやりようがないので、できるだけ海に近づけることが大事。その中でも個体管理等が重要なポイントになるので今後の対策の参考にしていただきたい。(坪井委員)

以上